



ひきつけ

- 子どもがひきつけると、お母さんは動転してしまいます。このままどうにかなってしまうのではないかと心配です。
- 最も大事なことは冷静になることです。子どものそばを離れないことが大切です。
- 急に抱き上げたりせずに、衣服のボタンをゆるめて楽な姿勢で寝かせましょう。嘔吐しそうだったら、吐物をノドにつまらせないように、体を横向きにして寝かせましょう。
- 子どもは舌をかんだりする心配はありませんから、口の中に手を入れたり、何かをかませたりする必要はありません。
- ひきつけの様子を良く観察しておきましょう。
 - 何分くらいか？
 - 体は震えていたか？
 - 体を硬くしていたか？
 - ひきつけは体の左右対称に起こっていたか？
 - 熱は何度くらいあったか？

ひきつけにもいろんなタイプがありますが、最も多いのは**熱性けいれん**です。

- 眼が一点を見つめたままになってしまう。
 - 呼びかけても答えない。
 - 体をつっぱって硬くする。
 - 体ががたがたとふるえる。
 - 口の回りが紫色になる。

- 熱性けいれんは数分間で止まります。1分が1時間くらいに感じられますが、お母さん気をしっかり持ってください。

熱性けいれんの予防

- 熱性けいれんは子どもだけでなく親にとってもいやなものです。熱性けいれんを起こした子どもの3人のうち1人がけいれんを繰り返す可能性があります。
- 2回以上けいれんを起こした時は、けいれんの予防を選択することができます。熱の出始めに抗けいれん剤を2回使用する方法です。

熱が37.5度以上
38.0度以上
に上がったら

抗けいれん剤
#1 ダイアアップ
4mg 6mg
時 分

- その後熱が続いても抗けいれん剤は合計2回使用すれば3日間は予防できます。

熱が8時間以上
続く

8時間後
#2 ダイアアップ
時 分

- 抗けいれん剤の副作用は眠くなったり、ふらふらしたりすることです。子どもから目を離さないように！

- 脳波などの精密検査が必要なとき。
 - 体温が38度以下で起こった
 - 体の片方だけ
 - 15分以上続いた
 - 24時間以内に繰り返した
 - 6カ月未満の乳児
 - 1年間に4回以上起こった